

会報 安曇野教育

第50号

発行所 安曇野市教育会
 発行人 藤松 伸二郎
 編集 会報委員会

発行日 平成28年3月1日
 題字 川田 殖

「本当の子どもの出会い」
 若かりし頃、同好会の研究授業の機会をいただきました。完全な立ち往生の授業となつてしまった苦い経験が思い浮かびます。しか

「出会いが生まれる」と。
 一年間の教育会の諸活動を通して、先生方のなかに生まれたと思われる出会いの幾つかを、私の拙い経験と重ね合わせて思い浮かべてみました。

十四ある各種委員会では総勢七十六名の先生方に支えていただきました。また、実技講習会や同好会活動に多数参加いただいたこと等々、研修に対する意欲的な姿に胸打たれるものがあります。

こうした先生方の姿に対して、ある先輩は次のような言葉を残しています。「ひたすら精進を重ね、善意を尽くすところに底の深い出会いが生まれる」と。

早いもので一年のまよめの時を迎えました。「職能向上」を始めとして、「教育の振興」「郷土の研究調査」「児童生徒の健全育成」等々の目標の実現に向けて、会員の先生方から献身的なご努力をいただきました。

尊いと感じることは、事業の一つ一つが児童生徒や地域社会のためのという、いわば利他的な精神に貫かれていることです。

「出会いを求めて」

会長 藤松 伸二郎



「新たな価値との出会い」
 「出会いとは、それまでは、自分にとって何でもなかったものが、そのときから、かけがえのない大切なものであると気づく。その気づきから自分自身の価値観・考え方・人生観がかわってくるものである」川田殖先生から教えていただいた言葉です。

改めて、この一年間の先生方の歩みは、出会いの連続ではなかったかと思えます。今後も、果ての無い出会いを求めて共に励んで参りましょう。

私の教育の起点となつて「自分の未熟さや至らなさ」をありのままに自覚し、表出できない限り本当の教育は成立しない」「子どもの幸せを願う深い愛情や生かされている自覚がもてているか」幾度かご指導いただいた先輩・同僚の言葉が思い起こされます。

私のなかに、学級経営の稚拙さや授業の未熟さを子どもの所為にする傲慢さや、私の手のひらのなかで遊ばせたいと願う不遜さがあることを、研究委員会や同好会の先生方から教えていただきました。今でも感謝しています。

「自分の未熟さや至らなさ」をありのままに自覚し、表出できない限り本当の教育は成立しない」「子どもの幸せを願う深い愛情や生かされている自覚がもてているか」幾度かご指導いただいた先輩・同僚の言葉が思い起こされます。

し、授業記録を何回も見直すなかで、今まで見えなかったその子の論理があることに気付かされました。子ども観が一変しました。

教育会この一年を振り返って

庶務担当幹事 窪田 尚幸 (三郷小)

安曇野市教育会の諸事業も、会員の皆様のご協力を得て、滞りなく活動を進めることができました。

今年度の総集会は、昨年度同様に堀金総合体育館サブアリーナにて午後開催とし、同好会の発足会もその前に行う形で実施しました。

講演会は、『信州の山々と人々をこよなく愛した父・木村素衛』という演題で、木村素衛先生の四女の張さつき先生からご講演をいただきました。また、会員の研究発表として木村素衛委員会委員長の先生から、委員会の研究成果を発表していただきました。講演会、会員意見発表ともに素晴らしい内容で、私たちにとても貴重な研修の機会となりました。

総集会への出席者は、年々減少傾向にありましたが、事前に出席の確認を行ったこともあり、今年度は増加に転じました。今後も、我々の職能向上の大切な場としては勿論、公益法人として、一般市民の皆様にも貢献し得る総集会にしていきたいと思えます。

本会の重要な活動である各種委員会・同好会・実技講習会も、参加された会員の皆様のご協力で、それぞれ充実した活動になりました。具体的な活動内容については、会報や会誌に詳しく記されていますので、お読みいただき活動を共有していただきたいと思います。また「安曇野の先人等に学ぶ会」、「安曇野巡検」、「安曇野の子どもを語る会」等の諸事業も多くの皆様に参加していただき、どの会も大変充実したものとなりました。ありがとうございます。

「安曇野の子どもを語る会」については、その様子と成果を参加者及び会員以外の全保護者にも、今年度新たに一枚会報として配布することができました。今後も教育会の活動を積極的に発信していきたいと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

十一月に行った「平成二十八年度事業に向けた調査」では、全ての項目について九割以上の方が「おおむね現状でよい」と回答して下さいました。会員の皆様のご協力の結果であると感謝しています。今後も改善すべきところは改善しながら、会員の皆さんが進んで参加し、ともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していこうと思えます。

**第二回事業推進
連絡会行われる**

新年に入った一月十五日、各校の代議員が集まり事業推進連絡会が開かれました。

冒頭、藤松伸二朗会長が、新年に当たり決意を述べる子ども姿にふれ、自分たちは明確な目標を持っていくか、子どもたちに見られるのに足る姿が示せているかと、教師の姿勢を確認されました。

続いて、諸事業の反省が発表されました。実技講習会では昨年度より講習時間が長い講座が多く内容の充実が窺えたこと、安曇野の子どもを語る会について会報の縮小版を家庭数配布して内容を発信したことなどが報告されました。

会員へのアンケートを踏まえた常任委員会による事業に関する来年度の方向も示されました。会報は年五回発行から四回に減らすことを検討、実技講習会は一日開催を大事に、同好会の会員数を増やす工夫を継続等、確認されました。

最後に、教育会活性化のための意見交換が行われました。とくに同好会については時間の保障、教科会とし参加者を増やす、メリットをどう伝えるかなど、活性化への創造的な意見が出されました。

同好会からの報告

【国語同好会】

明南小学校の伊藤和子校長先生を会長、明北小学校の青木泰治校長先生を副会長として、会員二十五名で活動してきました。

六月には穂高西中学校の文学の授業、十月には豊科北中学校の書写の授業を公開していただき、自分の思いを大切にしながら友と高め合う生徒の姿を引き出している見事な実践から多くのことを学ばせていただきました。また県の夏期研修会、県国語教育研究協議会諏訪大会にも会員が参加し、レポート発表をして評価を得ました。

授業を通して、国語を専門とする仲間との交流を図り、各自の実践力を高める活動ができました。

【社会科同好会】

堀金小学校の勝家昌昭校長先生に会長をお願いして、会員三十一名で活動してきました。

本年度は、七月に豊科南小学校で「わたしたちのまち みんなのまち」、九月に豊科北中学校で「世界の人口 日本の人口」の授業を提供していただきました。授業研究会は可能な限り小中合同にて開催し、多くの先生方に参加していただき、立場を超えて積極的に意見

見を交わしながら授業力向上に努めました。また、学習会では東京芸術大学の三好大輔先生をお招きして、貴重な八ミリ資料を用いながら昭和三十年代から五十年代の安曇野について様々な角度から学び合いました。

来年度は、さらに多くの先生方に積極的な参加を促すとともに、研究のあり方についても検討していきたいと思えます。

【算数・数学同好会】

会長に豊科北小学校の遠藤正志校長先生をお願いし、会員二十三名で活動しました。

来年度には県大会が予定されていることもあり、本年度は昨年度のテーマ「全国学力・学習状況調査の結果から課題となった『活用』の力」を伸ばすための授業はどうあつたらよいか」を継続し、結果を改善に生かすことに焦点化し、説明の記述についての評価基準を追究してきました。

準備のために、授業改善を学ぶ講演会を昨年度に引き続き信州大学准教授茅野公穂先生をお招きして開催しました。県内外の研修会や研究大会にも多くの会員が参加しました。

また、三郷中学校、三郷小学校の校長先生のご厚意で研究授業を参観させていただき、授業を通して学び合うことができました。

来年度はこの成果をもとに、同好会員や安曇野の児童生徒はもとより県内各地よりお越しになる先生方と共に学びあう活動をしていきたいと思えます。

【理科同好会】

今年度の理科同好会は、昨年度に引き続き、穂高西中学校の飯沼哲夫校長先生を会長にお願いし、会員三十六名で発足しました。

七月十一日、教育長の橋渡勝也先生を講師に迎えて常念岳の植物観察会を開催しました。

道すがら植物に出会うと、橋渡先生から名前とともに見分け方や特徴を話していただけます。イタヤカエデでも葉の裏側に毛があるもの無いものがあると聞けば葉をひっくり返し、アズサノキの枝はサロメチールのような匂いがすると聞けば、匂いを嗅いで、と五感を使って植物を観察していききました。今年は頂上まで観察できなかったのでも来年もぜひ継続開催したいと考えています。

【音楽同好会】

音楽同好会は、豊科南小学校の筒井年恵校長先生に会長をお願い

し、会員二十三名で活動しました。例年のように教育会総会の開幕時の合唱から活動がはじまりました。毎年改まった雰囲気でも混声合唱を歌うことができ、気持ちのよいものですね。また、「こども病院コンサート」も短時間ではありませんが交流を図り、会を盛り上げる事ができました。

「会員演奏発表会」は、昨年に引き続きピアノやヴァイオリン独奏、独唱、二重唱。そして全員全員によるリコーダー合奏と合唱。日頃忘れていた演奏する側の緊張感、表現することの大切さを思い出しました。その後の懇親会も例年より参加人数が増え、あたたかい雰囲気でお互いの労をねぎらうことができました。一年間ご協力ありがとうございました。

【美術同好会】

美術同好会は、昨年度に引き続き豊科東小学校の田中好文校長先生を会長に、会員十一名で発足しました。

主な活動として、十月に県児童生徒美術作品展、信濃教育会主催「今を生きる子どもの絵展」の作品審査、十一月に開催された県美術教育研究大会松本(波田)大会へ協力参加し、絵画領域における指導の仕方を中心に、授業づくりについて考える内容で研修を深める

ことができました。十一月から市内巡回展、二月には各展覧会の入選作品を一堂に展示する「児童生徒徒造形作品展」を堀金「ほりでーゆー」を会場に開催し、地域の方々にも楽しんでいただきました。

【体育同好会】

体育同好会は、豊科北中学校佐藤厚彦先生を会長に、会員数三十一名で、公開授業・研究会・講演会を中心に活動してきました。

公開授業は、堀金中学校の

先生が「剣道」堀金剣士への道」の授業提案を行いました。子どもたちに剣道の楽しさを味わわせたいという先生の強い願いを教材化し、攻防を分けたゲームなどを行いました。どの子も手数をたくさん出して打突する姿が見られ、教材化の良さを実感することができた授業でした。講演会は、信州大学の岩田靖先生より「運動の課題性の違いに応じた学び方の探究の必要性」という演題で、お話しいただき、学習過程の大切さを学ぶことができました。

【技術・家庭科同好会】

技術・家庭科同好会は、明科中学校長平沢重人先生を会長に、会員数十二名で活動してきました。

夏の実技講習会は、すべての先生方が楽しく学べるようにと、題

材や実習内容を決め出しています。が、冬のスキルアップ講習会は、文字どおり同好会員のスキルアップのための講習会として実施しています。本年度は、長野県産木材を利用した手作りイスの製作題材の研究をしてスキルアップ研修を行いました。

ものづくりの好きな先生方、来年度はぜひお気軽に本同好会にご入会くださるとありがたいです。

【道徳同好会】

道徳同好会は、三郷小学校の望月弘校長先生を会長に、会員十一名で活動してきました。

主な活動として、二月に道徳指導研究会を行いました。道徳の教科化を見据え「考える道徳」を具現化するために、どのような教材や授業展開が有効か資料から学び、意見を交換したりしました。また、長野県道徳教育学会長野大会や道徳教育研究協議会安曇野地区大会にも参加し、授業を参観させていただきました。

今後、同好会を通じて来る道徳教科化に向けて研鑽を積んでいきたいと思えます。

【哲学同好会】

哲学同好会は、豊科南中学校校長藤松伸二郎先生を会長に、会員総数四十八名で活動を行ってきました。

た。六月の「安曇野の先人等に学ぶ会」では木村素衛先生の日記の読み合わせ、七月の「哲学研修講座」では、『クリトーン』の読み合わせを行いました。この研修講座では、参加された先生方の熱心な問い合いや、講師の川田殖先生による丁寧かつ示唆に富んだご指導のもと、今回のキーワードである「よりよく生きる」に関連させ、現代社会に生きる私たちの生き方と教育のあり方について、深く学ぶことができました。先輩の先生方をはじめ多くの先生方、若手の先生方にもご参加いただき、充実した研修となりました。

自身の事例で悩んでいることや有効な関わり等について会員一人ひとりにお話し頂くと、それを聞くだけで有益な時間になったと感想が出されました。

二月二十九日には『冬の研修会』として、臨床心理士でスクールカウンセラーの堀 正文先生に「子どものころに寄りそうとは」と題して、ご講演を頂きます。子ども達との面談を、より充実したものにする為に、皆さんで学んでいくことが幸いです。

【人物誌同好会】

人物誌同好会は今年度明北小学校長青木泰治先生を会長に、会員五名で活動を行ってきました。

本年度同好会では、井口喜源治記念館主催の学習会に参加し、井口喜源治先生二十六歳の頃に書いた日記の読み合わせを行いました。井口先生は穂高に研成義塾を開き、安曇野で人間教育を進められた先生です。この頃井口先生は東穂高村高等小学校に勤務、相馬愛蔵らとともに禁酒会を組織しています。日記にもその活動の一端が綴られています。

年四回の学習会では信州大学名誉教授の武富保先生の助言もいただき、井口先生の思想・精神を学びました。



【教育相談同好会】

教育相談同好会は、穂高北小学校中村真市校長先生を会長に、会員数十四名で活動を行ってきました。発足の自己紹介の中で、ご

東 西 南 北

「人のために動く」

三学期がスタートした一月七日のことです。図書館

に入るカウンター横の数多くのお守りが目に入りました。図書館司書の先生が、三年生一人一人のためにつくられた手作りのお守りです。本を借りた三年生は、そのお守りを両手で受け取り、お礼を述べていました。

今年、平成五年に制定された学校目標の一部を改定しました。先日地域の石材店の方が校長室を訪ねて来られました。正門横にある学校目標の石盤を十三年前に造られた方でした。是非、直させていた

「春はまだ 寒き幾日ぞ凍み果つる さ庭に立てば 恋ほし夕映え」鈴木英夫の歌です。毎月初めに、地域の方が今月の歌として八つ切りの書を飾りに来てくれます。私は、幼い頃、祖母から「人様の迷惑になる生き方をしてはいけませんよ。」とよく言われました。でも今は、「人のために進んで何かをする。」そんな生き方をしたいとこのお三人の姿から学ばせていただきました。

(明科中学校長 平沢重人)

【英語同好会】

三郷中学校の井口真校長先生を会長に二十四名の会員でスタートしました。

本年度は長野県英語教育研究会の夏季セミナーや全県大会が木曾郡の開田小・中学校で行われ、先生方にご参加、ご協力をいただきました。

また、二月の研修会では、英語の教科書の題材にもなっている『英語落語』でたいへん有名な、神奈川大学外国語学部国際文化交流学科の教授大島希巳江先生をお迎えします。英語落語や「笑いは敵を作らない」をモットーに世界各国をまわられ体験されたお話をお聞きし、国際感覚を育み、グローバル化する国際社会に対応できる生徒の育成のために、今の英語教育に何が求められているのか学ばせていただきたいと思います。

【情報教育同好会】

穂高南小学校の丸山福一校長先生を会長に、十名で発足しました。

研修会では、初歩のアクセスと要録アシストの利用について、基本的な内容を学び合いました。アクセスを活用することで、通知票の入力をする、その入力した内容が指導要録や調査書に反映されるものを体験しました。さらに、転出入があった時に名前を登

録削除すると同様に反映されるというものでした。このように、仕事を一元化してできると、校務が軽減されてよいと思いました。

来年度、タブレットが導入されると聞いています。このタブレットの効果的な活用法について実践事例を積み重ねていきたいです。

【学校保健同好会】

穂高西小学校の高橋いづみ校長先生を会長に、二十名の会員で発足しました。

校種別研修会では、今年度変更された職員健康診断の実施方法について、中学校では登山引率の諸注意などの情報交換ができ、各校の保健活動の参考になりました。

「仲間から学ぶ職務のアイディア」研修会では、保健室での不登校対応について学ぶと共に普段では時間を取りにくい教材の作成も行い、充実した研修となりました。活動を通して会員相互の繋がりができ、その後の日々の交流を深めることができました。

【特別支援教育同好会】

穂高東中の神谷哲彦校長先生を会長に二十八名で発足しました。

七・八月は、先生を講師に迎え「WISCから子どもとのつきあいを工夫する」をテーマに事例検討会を行いました。異職

種の方々も交え、持ち寄った事例から学び合うことができました。七月は、神谷会長を囲み「思いを語る会」を開きました。各校で孤軍奮闘している仲間と本音で語り合い、参加者がより親しく、今後繋がる機会となりました。

年々会員数が増え、特別支援教育への関心と期待の大きさを感じます。ネットワークを広げ、情報の共有や発信ができればと考えています。

【生活・総合研究会】

本年度は豊科南中学校の藤松伸二郎校長先生を会長に、七名の会員でスタートしました。

ヤギ・うさぎ・カブトムシ・ヤドカリなどと子どもたちとのくらしから、子どもの育ちを見つめる貴重な時間となりました。もし座学で救えない子がいても、生活・総合の体験の中で救えることがたくさんあることを学びました。命が命を育て、一人一人が幸せになる教科が生活・総合であることを教えていただきました。

今後もお互いの悩みを語り合え、気楽に集まれる同好会を目指していきたいと思っています。また、「大人の生活科」として楽しめる活動も考えていければと思っています。

郷土の文化財 ③〇

安曇野市教育会の事業の証

『社会科資料集』と『進路学習資料集』

安曇野市教育会の中に七つの特別委員会があります。その中に、社会科資料集編集委員会とキャリア教育委員会の二つの委員会があります。

社会科資料集編集委員会では、安曇野市の子どもたちが自分たちの住んでいる地域を体験的に学習できるように『社会科資料集』（わたしたちの安曇野）を独自に編集し発行してきています。

キャリア教育委員会では、学校での進路学習に資する情報の収集に役立つ、市販のものとは異なる内容や特色のある『進路学習資料集』を編集・発行してきています。

長い歴史のある教育会において、立ち上げ当初から現在もお継続して作成されているこの二つの貴重な資料集を、今年度センターに展示しました。その時々の編集に携わった先生方の熱意や歴史の営みが、資料集からきくと伝わってくると思います。ぜひ、センターにお立ち寄りください。

(郷土文化財センター運営委員会)



編集後記

本年度最終号の会報をお届けします。お忙しい中、多くの先生方に原稿をお寄せいただき、ありが

とうございました。来年度も、会員同士の活動の様子を共有できる紙面作りを行っていききたいと思います。